



K 中 通 信

学校だより 9号
令和3年12月20日
横浜市立軽井沢中学校

【学校教育目標】『主体的に考え行動し、未来を切り拓く生徒の育成をめざします』

- 様々な関わりを通し、よりよく解決する力を育てます (知・徳・公)
- 持続可能な社会の実現を目指し、しなやかに生きる力を育てます (体・開)

学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/karuizawa/>

人権週間

校長 佐藤 由利

人権とは、人種や民族、性別を超えて、誰にでも認められる基本的な権利であり、一人ひとりが生まれた時からもっている「自分らしく、幸せに」生きるためのものです。

国際連合は、1950年12月4日の第5回総会において、世界人権宣言が採択された日である12月10日を「人権デー」と決めました。我が国では、1949年から毎年12月10日を最終日とする1週間(12月4日から10日まで)が「人権週間」として定められています。

軽井沢中学校では、7月に全校生徒一人ひとりが書いた人権作文の中から、学校代表として選ばれた作品の発表会をこの人権週間の取り組みとして実施しています。今年は12月6日月曜日の1時間目に「人権作文発表会」が行われました。1年生から3年生まで、4名の人がテレビ放送を通じて作文の発表をしました。それぞれ取り上げている問題は違いましたが、皆さん、実体験をもとに、経験したこと、感じたことを自分の言葉で素直に表現していて、聞く側にしっかり伝わってくる内容でした。また、各発表の合間には、「人権」に対する理解を深めるために、図書委員の3年生が「人権クイズ」を12問出題し、振り返りワークシートも準備してくれました。どのクラスもクイズに答える時には楽しみながら知識を深め、作文の発表になると真剣に聞く、というメリハリが素晴らしく、身の周りの「人権」についていろいろ考える、とても良い時間だったと思います。今年はパラリンピックも行われ、「多様性」という言葉もたくさん聞かれました。一人ひとりの違いを知る、気付くことがまず第一歩。そしてその違いを認め合い、違いを大切にする。人は、一人として同じ人はいないと思います。学校の活動で大事なことは、学習はもちろんですが、いろいろな仲間が集まっている中で、お互いの違いを認め合いながら生活していく、お互いを気遣いながら生活していくことを学んでいくことだと私は思っています。そういう気持ちで、クラス・学年・学校全体とその輪を広げ、地域の中でも生かされていってくれると嬉しいです。先日、学校の校門の近くで体調を崩して困っていた地域の高齢の方を助けてくれた生徒がいました。「困っているのかも」と思っても声をかけたり、行動を起こすのは、勇気のいることです。小さなことから一歩ずつ。～「誰かのこと」じゃない。～(神奈川県人権週間ポスターより)



保護者の皆様、地域の皆様

現在はコロナウイルスの感染状況も落ち着いてきており、このままの状況が続いてくれればと願うばかりです。やっと校外学習や学校行事も少しずつ実施できるようになってきましたが、今年度も年度当初より学校にお越しいただき生徒たちの学習や生活の様子をご覧いただく機会が設けられず、大変申し訳なく思っております。そのような中でも皆様方のご理解、ご協力のおかげでなんとかここまで教育活動を進めて来ることができました。本当にありがとうございました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

どうぞ良いお年をお迎えください。